

2017 SGH通信

【1年生配布用】

No.3 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

海外フィールドワークの報告をします！①

SGHでは、今年度も海外フィールドワークを企画しています。後日連絡しますが、6月14日（水）放課後には、説明会を企画しています。そこで、今回からの通信で、昨年度の様子、特に参加者が見て聞いて、感じたことを、昨年参加した現2年生の感想を掲載することで、皆さんにお伝えします。もともと参加したいと思っていた人だけでなく、これを読んで興味を持った人はぜひ、説明会に参加してみてください。説明会では、昨年参加した生徒がプレゼン発表を行います。

今回の報告は、「企業訪問」・「CLC訪問」編です。

昨年の海外フィールドワークでは、『ムトー精工株式会社 ホーチミン支社』『OKB(大垣共立銀行)ホーチミン駐在員事務所』『コスモビューティー』の3ヶ所を訪問しました。

東南アジアならではのメリットやデメリット、諸問題、現地の従業員の方々とのコミュニケーションについてお話を伺うことができました。企業の方々がどのように働いていらっしゃるのか。その姿には、私たちが将来国際的な場面で働く上でも大切になるであろうことがたくさん詰まっていました。

【ムトー精工株式会社 ベトナム・ホーチミン支社】 ※今年はハノイに訪問予定

ムトー精工は、デジタルカメラなどのプラスチック部品やプレス用の金型を取り扱う会社です。ホーチミンのほか、首都ハノイにも支社を持っています。

私たちは、カメラの部品作りと金型作りの工場を見学させていただきました。たくさんの方が働いていて、最終的には人の手でチェックしているそうです。ここで働く人々の多くは日本語が通じず、主に英語でコミュニケーションをとっていらっしゃいます。

日本人の方は2000人中6人しかおらず、ほとんどの作業工程を現地の方が行っています。現地の方々の技術力が高いことを感じました。

昼食の際、現地の方々と英語で交流させていただきました。日本企業で働く現地の人々の思いを知ることができ、よい経験となりました。また、英語を第二言語とする者どうし、ジェスチャーなどを交えながら会話をするという貴重な体験ができました。



CLCは「地域学習センター」(Community Learning Center) のことで日本の寺子屋のようなものです。

昨年訪問したトレイニョルCLCはシェムリアップ州ポック郡に、アンコール寺子屋プロジェクト 14軒目として一昨年の2月に完成したばかりの新しい施設です。貧しくて小学校に行けなかったり、やめてしまったりした子供たちに教育を行っています。通常、小学校は6年間ありますが、トレイニョルCLCでは2年で小学校の教育課程を終えることができます。アンコール寺子屋プロジェクトでは、このような復学支援のほかに、識字教育、人材育成なども行っています。

学校に行くことができない歴史的背景としては、ポル・ポト政権による知識人の大量虐殺による先生不足や、農家の収入不足、などの理由が挙げられます。また学校もあまり多くなく、5キロ以上離れていることも少なくありません。こういう状況を解決するために、カンボジアでは多くのCLCが作られています。

ホテルを出てバスに乗っていると、建物が少なくなり田畑が一面に広がるようになっていきました。その後、バスは舗装されていない道に入りました。道中にはいくつかの村がありましたが、そこには小学生低学年ぐらいの子も何人かいました。きっと学校に通えていない子もいたと思います。

CLCに着いたとき、電気もなく、エアコンもなく、あまりいい環境とは言えませんでした。遠くから歩いてきて疲れている子もいたと思います。それでも子供たちは限られた時間の中でできる限りのことを学び取ろうとしていました。この様子を見ていて「このような環境で勉強していることはかわいそう」と思うことは失礼で、子供たちにとってはこのCLCがとてもよい環境であるのではないかと考えました。また、自分たちはさらに勉強しやすい環境にいるのだから、そのことに感謝し、勉強をもっとがんばる必要があると思いました。

カンボジアの教育については、現地に行ってみないと分からないことがたくさんありました。また日本とカンボジアでは環境が違うので、今、自分が勉強をできるのは恵まれていることなのだと思います。そしてアジアの国々と共生していくためにお互いの文化や環境の違いを知ることが大切だと思います。私はこれからもアジアの文化など知り、さまざまな問題について考えていきたいです。

(現2年生男子・女子)

